

第96回マッセ・セミナー

「『もったいない』からはじめよう！  
これからの自治体経営」

開催日：平成27年12月14日（月）

会 場：マッセOSAKA 5階 大ホール

講 師：びわこ成蹊スポーツ大学 学長、前滋賀県知事  
嘉田 由紀子 氏

## 『もったいない』からはじめよう！

## これからの自治体経営

嘉田 由紀子 氏  
(びわこ成蹊スポーツ大学 学長、前滋賀県知事)

## はじめに

皆さんこんにちは。マッセ・セミナーとはどういう意味かと思いましたが、Make Up Sensibilityということでした。「やりまっせ」と兼ねた、まさに大阪らしい講演になると聞いています。本日は96回目ということで、これだけ大阪府内の市町村の皆さんが勉強し、また記録も活字で確実に残して蓄積しているのは見事です。伝統あるマッセ・セミナーにご招待いただきまして、あらためて感謝申し上げます。ありがとうございます。

私が頂いている時間は1時間45分です。資料は、パワーポイントをかなり欲張って準備してきました。活字はそちらを見ていただくことにして、大学で言うところの90分の授業を走らせて、その後15分ほど質疑応答をします。また、後半は少人数の皆さんとの意見交換会もさせていただきたいと思います。本日はどうかよろしく申し上げます。

これからの自治体経営はどうあるべきかということで、今日私は六つのテーマをお持ちしました。

一つは、なぜ日本が利益誘導型政治によって、今のような借金大国、少子高齢化、環境汚染などを含めたいろいろな日本病を抱えてしまったのかという背景をざっとお話しします。利益誘導型政治とは、「この事業をやるから1票ください」と言うと、かなり分かりやすいです。多分皆さんが市町村で議会をやっていると、首長だけでなく議員さんからも、うちの地区でここを頼むなど、いろいろなお願い事があると思います。お願い事に応えるのは、もちろん大事です。それが票になるので、首長がいろいろとやってきました。議会も含めて、私はそのあたりが日本の政治の大きな問題だと思っています。

私は滋賀県知事選挙で、「ダムは要らない」「新幹線の新駅は要らない」「廃

棄物処分場は要らない」と言いました。物を造らない、要らない、要らないで知事になったのは、東京の青島さん以来2人目だといわれました（微笑）。みんなは何かをやると言って票をもらうのに、やらないと言って票をもらいました。2006年のことです。世論がこのまま無駄遣いをしていたら次の時代、孫子の世代につけ回しをしては危ないという感覚を既に多くの人たちが持っていたので、多分、私は票を頂いたのだと思います。世の中がこのままではやりきれない、孫子に付け回しできないと思っていたところに、もったいない政策がずとんと落ちたのだと思います。

二つ目に、なぜそういう政策かということです。少し気恥ずかしいのですが、私は学問のための学問をやってきたのではありません。女性の地位向上のための家族社会学や、アフリカに行って水の価値を見いだしたという水の問題など、学問のための学問ではない、社会を良くするための学問をしてきました。その個人史を含めてお話ししたいと思います。

そして三つ目に、ムダな公共事業の見直しによる財政健全化です。滋賀県は例の赤字県債を除いて、具体的に借金を900億円減らし、貯金を300億円増やしました。やればできるのが公共事業の見直しです。

四つ目は、「子どもが生まれにくいのもったいない。命を生み出し守り育てる」です。人口減少に対して、滋賀県として随分投資をしてきました。人への投資です。多分皆さんは例の地方創生で、婚活やいろいろなアイデアを出せというのがあると思いますが、これは行政や政治でそんなに簡単に変わりません。日本の社会の家族や雇用の構造に関わるものです。そこを次にお話ししたいと思います。

次に五つ目です。日本のこんなに美しい国土、水、森、豊かな海を壊すと本当にもったいないと思います。ご先祖さまに申し訳が立たないし、環境は次の世代への預かりものです。これを壊すのもったいないというのが三つ目です。特に琵琶湖は、皆さんの命の水源です。

まず本日の参加者の皆さんから、今日はどちらからお越しなのか教えていただけますか。

大東市から来られましたか。水害で随分苦しみましたね。大東水害の訴訟を私たちは一生懸命勉強しました。低地なので、あそこは水害を受けやすいのです。ご苦労さまです。大東市の水道の水がどこから来ているか、ご存じですか。

淀川から。もともとは琵琶湖です。

どちらから来られましたか。大東ですか。大東の水源は、大筋は大阪広域水道企業団から購入していただいています。

どちらから来られましたか。吹田ですと、もろに淀川沿いですね。地下水も200万t程度水道企業団から購入されているそうです。淀川ですから琵琶湖です。

どちらからですか。水道企業団、では水のプロですね。大阪市は市の独立水道ですが、大阪府内全域は大阪広域水道企業団です。いずれにしる琵琶湖の水をお使いいただいています。よく「水がめ」と言いますが、私は「水がめ」という言葉が大嫌いです。私が昭和56年に琵琶湖研究所に入ったときに、パッと入れたら琵琶湖がきれいになる薬を開発しろと県議会から言われたのです。まさに水がめのイメージです。「びんの中に薬を入れたら、水がきれいになるだろ。そういう薬を開発するのが琵琶湖研究所の役割だ」というのですが、そんな都合のいい薬はありません。琵琶湖には1,000種類以上の生物がすんでいます。その生命に影響が及びます。400万年の琵琶湖の歴史と生態系を見たときに、水がめのイメージから脱却し、「命の水源」であるとずっと言い続けています。

最後は、持続的な自治体経営をどうするかという、「『もったいない』を活かした自治体経営」です。この6点をお話します。

## 1. 利益誘導型政治が日本に「もったいない」の日本病を蔓延させた

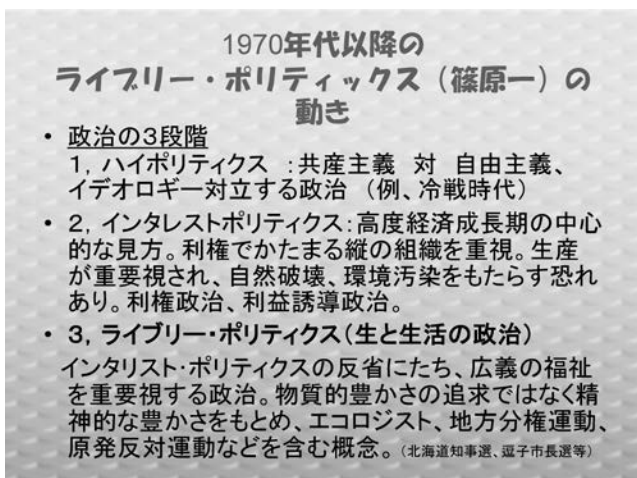
### 1-1. 滋賀県におけるライブラリーポリティクスの経過

最初に、なぜ日本はこんなばらまき政治になってしまったのでしょうか。篠原一さんという東大の政治学の先生がこのように言われました。1970年以降の政治の理念には、三つの種類がある。一つはハイポリティクスで、共産主義対自由主義という、いわばイデオロギーの中で政治を理念化していくもので、冷戦時代の共産主義対自由主義がその例です。

二つ目はインタレストポリティクスで、高度経済成長期の中心的な見方です。生産を重視し、特に道路やダムなどハード系の投資で経済成長を進めていこうという考え方です。これはこれで一定程度の役割を果たしたのですが、そのバックに集票装置が働いていました。アメを配ることによって政治を動かしていくということです。

三つ目は、ライブリーポリティクス（命と生活の政治）です。これはインタレストポリティクスの反省に立って、広義の福祉や環境保全を重要視する政治で、物質的豊かさの追求だけではなく、精神的な豊かさや環境保全、地方分権運動、原発反対運動などを含めた概念です。これが美濃郡都政の出発点だったと思います。北海道なら横路道政です。

ただ日本の場合、保守も革新も大きな政府を求めるのです。アメリカの共和党を見てください。福祉は要らない、医療費は自分でといますが、日本の自民党はどうですか。全ての政党がばらまく状態になってしまっています。だから1,000兆円も借金をつくってしまったのです。



今年ドイツが、借金なしで予算を組みました。50兆円ほどの予算規模ですが、メルケルさんはすごいと思います。日本は100兆円の規模ですが、税収が半分で、残りの半分は次世代に借金を回しています。しかも、日本の国債は60年償還です。うちの6人目の孫が6月12日に生まれました。孫の顔を見て「ごめんね。おばあちゃんとおじいちゃんたちがやっていることで、今の借金は、あなたが60歳になるまで肩に掛かってくるのよ。あなたたちからは1票も頂いてないのに！」とあやまっています。

こんなにひどい政治にしたのは誰でしょう。国民全体です。また、一部、自社・

さきがけ、あるいは民主党政権の時代もありましたが、一番の責任は、ずっと長い間政権を持っていた自民党にあると思います。それに対して、私たちはどう対処すればいいのか。ライブリーポリティクスでありながら、きちんともったいないを入れ込んで臨んだのが、私が知事選挙に出たときの出発点でした。

実は滋賀県で環境を大切にするという政治が始まったのは、今から41年前の1974年です。武村正義さんが自治省の官僚から八日市市長になり、40歳で知事になりました。それまでの利権絡みの野崎県政に対して、当時の社共連合で成立させた知事です。武村さんの一番の政策約束は、琵琶湖の環境保全でした。そういう意味ではライブリーポリティクスはここから動き出し、赤潮が出た所に対して、日本で初めての富栄養化防止条例を作りました。

水環境政策をやっている方はよく分かると思いますが、行政は毒物は一定程度規制ができます。それこそ水俣病の有機水銀なら規制の基準は分かりやすいのですが、富栄養化の原因物質である窒素やリンは、もともと人間にとっての必須栄養素なので、それを規制するのは大変です。しかも当時の一番のポイントは、合成洗剤の中に入っているリンでした。

洗剤メーカーからは「営業妨害で憲法違反」とまで言われながらも、滋賀県独自の条例を作りました。国際的にも、富栄養化防止条例に近い条例はありません。それくらい滋賀県は、世界に発信できる政策を実現しました。しかも、それは住民の力です。台所から琵琶湖に負荷を掛けないという石けん運動です。その流れの中で、1982年に滋賀県琵琶湖研究所ができました。

昨日も、武村元知事と忘年会で話をしていました。彼は今81歳です。一時期病気もしていましたが、元気かくしゃくです。「嘉田さんは、琵琶湖研究所に入ってくれたのだね」とおっしゃるので「そうです。武村さんがつくってくれた琵琶湖研究所です」と言いました。そこが、私の県職員としての研究員のキャリアです。

考えると、武村さんはその後いろいろな種をまいてくれました。今はみんな大きく育っています。例えば、世界湖沼会議です。これは、国際会議を自治体がやるのはけしからんと当時外務省から怒られながら、武村さんが始めました。今17回目です。3年に1度ずつ世界湖沼会議をするために、滋賀県の外郭団体のILEC（国際湖沼環境委員会）がつくられました。

「環境学習船うみのこ」は、小学校5年生が1泊2日で琵琶湖上に出て、湖

上体験をします。これも1983年からですから、33年目になります。50万人が乗りました。

滋賀県の子だけではなく、ぜひ川下の皆さんにもということで、私が知事の時代に10億円の基金をためて、「うみのこ」の2艘目の準備に入っています。大阪の子どもたちも琵琶湖の湖上に出て、これが自分たちの水源だと知ってほしいのです。

それから図書館や美術館、ヨシ保全条例を作りました。

私自身が提案をして、企画、建設、運営にかかわった琵琶湖博物館は、武村さんの次の稲葉さんの時代です。ゼロから提案して、仲間とともにつくってきました。それから、県立大学環境科学部とびわ湖ホールです。考えてみると、これらは全て県の単独予算です。国費を入れていません。

例えば琵琶湖博物館は、研究、展示、資料収集、普及の四つの柱を入れろと国からいわれます。私は普及という言葉が嫌いです。普及というのは、中心から周辺へという感じです。私は双方向の交流にしたいので、琵琶湖博物館の四つの柱に交流を入れたら、文科省がこれは博物館法に合っていないので博物館の認定をしないとしました。「認定は要りません、結構です」と言いました。オープンしたらすごい人気なので、国の方から認定させてくれと言ってきました。もちろん自分たちが必要だと思ったらやりますから、別に国に追随しなくてもいいのです。琵琶湖は自分たちが守るということで、基本的には100%県単でやってきました。だからこの琵琶湖政策は、自分たちの理想が実現できたと思っています。

2006年に、環境保全と言いながら当時の知事が琵琶湖周辺に六つのダムを造ると言いました。利水については、ある程度ダムは必要です。水道水源としてダムは必要です。しかし、水は既に2006年には余っていたのです。琵琶湖総合開発が終わり、プラス40tの開発利水も今、使い切れていないのです。多目的ダムは、利水機能を引くと治水だけ残ります。治水なら、ダムではなくてもいろいろな方法があります。後からお話しする流域治水という方法があるので、ダムは要りません。ところが残念ながら当時の知事は、まだダムをやっていたのです。私は我慢できずに手を挙げてしまいました。それが2006年の知事選挙です。かなり厳しい選挙でした。それは後でお話しします。

2006年の相手は現職で、自民、公明、民主との270団体の推薦です。私は女



手二つです。私の後援会長、小坂育子さんと一緒に、琵琶湖博物館をつくって水と文化研究会という住民参加の調査研究をやってきた人たちが母体になりました。完全に草の根です。何の政治の母体もありません。しかし、21万票頂きました。たった2か月の選挙です。現職は18万票でした。

2期目の知事選挙では衆議院議員の方が出ましたが、私は42万票を頂いて、相手は21万票でした。全く政治色がなく、琵琶湖と地元にこだわるだけで、みんなこれだけきちんと見ていてくれるのです。それが、私の命にこだわる政治の原点でもあります。

それから2011年の原発問題があって、後でお話する若狭の原発問題がありました。一番近い所は13kmです。今「ふげん」は止まっていますが、「もんじゅ」「ふげん」を含めて15基あります。万一のことがあれば、あつという間です。福島並みの事故が起きたらどうなるかをシミュレーションしました。琵琶湖を守る責任として原発は早く卒業してほしいという、「卒原発」を訴えました。しかし、そういう知事はけしからんということで、7月の知事選挙に対して、去年の2月に原発推進の刺客が安倍政権から送り込まれてきました。

私はやるべきことをやったので、3期目は手を引きたいと思っていたのですが、原発推進の方にバトンを渡すわけにはいかないと思いました。そのときに、若手の衆議院議員の三日月大造さんが「嘉田さん、琵琶湖を守る・原発を要らないというバトンを僕が受けます」と手を挙げてくれたのです。この写真の方です。43歳です。

労組からの知事は、実は三日月さんが初めてだそうです。そういえば全国の知事は、圧倒的に国の官僚が多いのです。選挙中は、石破幹事長が毎週来て、朝から市議会議員に1人ずつ「石破です」と電話をしていました。知り合いの市議会議員が「なりすましかと思ったら本人だった」と言うくらい、「Kを頼む」と、トップで団体をみんな押さえました。中小企業団体には、「おまえのところの予算がなくなっているのか」と言うのです。すごいです。選挙が利益誘導そのものです。国会議員が200人来ました。

武村元知事は、昔の知事です。私は去年の7月19日までの現職です。おじいちゃんとお母さんが、「息子をお願いします」と言って回りました。ぎりぎりでした。1万3,000票の差でした。原発要らない、卒原発のバトンをどうにか渡すことができました。



事ほどさように自治を守るというのは、どこまで独自に考えられるかも含めて、今の時代は特に難しいです。今回の地域創生でも国がみんなメニューを出してきて、いつまでにとということです。まだ民主党政権の分権の方が、地方の自治はありました。

## 1-2. なぜ知事を引退したのか？

次に、なぜ知事を引退したのかです。2回の知事選挙で約束したマニフェストがありました。一つ目の「税金の無駄遣いもったいない」では、借金を減らして貯金を増やしました。

「子どもや若者の自ら育つ力、損なったらもったいない」は、特に若者、女性の雇用政策、子どもを育てやすい人口政策です。人口1,000人当たりの出生者（子どもの数）は、全国は8.5人で、滋賀県は9.2人です。全国2位に回復しました。1位は、圧倒的に沖縄です。沖縄は人口増加率が1位です。滋賀は2位まで回復しました。これもやるべきことはやったというのが二つ目です。

三つ目が、「琵琶湖の豊かな自然、壊したらもったいない」です。ダムは六つ止めました。そのときのダムが、丹生ダムと大戸川ダムです。大戸川ダムを要らないと言ったときは、大阪はまだ橋下知事の時代です。橋下知事と京都府の山田知事に、「下流に効果が少ないのに、皆さんの裏負担（支払い）が入るのです」と言いました。効果はゼロとは言いません。1,000億円のダムは、300億円の裏負担があるのです。例のぼったくりバーの請求書の話で、直轄負担金を問題化したのも大戸川ダムです。橋下さんに「あなたのところは300億円もいいの？」と言って火をつけさせてもらいました。大体知事のところに直轄負担金の協議なんかあまり来ません。いつも財政課が定常的に払っています。それをきちんと白日の下にさらけ出して、負担金を問題化しました。そのきっかけが大戸川ダムでした。丹生ダムも大阪と兵庫の負担が大きいのです。渇水対策なのです。琵琶湖そのものに十分水があるのに、なぜ琵琶湖の上流に1億5,000万tのダムを造って渇水対策をするのでしょうか。琵琶湖は275億tの水があるのです。開発容量は上1.5m、下1.4mで、2.9mです。

## 6つのダム問題から新しい河川政策

←江戸・明治・大正・昭和河川行政の歴史から学んだ  
流域型治水を職員と知事が対話しながら戦略化。



そういうことも含めて生態系の回復の方向もかなり見えてきたところに、三日月さんが現れました。それで私は政治家としては引退し、次は若者育てをしたいということで、びわこ成蹊スポーツ大学の学長を2014年の10月から拝命しています。スポーツ大学というと男性のイメージが強いのですが、女性も活躍しています。女性リーダーを育成したいという思いもあります。この間関西テレビで、水球の森翼さんが出ていました。わが校ではスポーツを柱にしながら、「するスポーツ」「支えるスポーツ」「見るスポーツ」と七つのコースを用意しています。また、就職率が大変良くて、ほぼ100%です。スポーツ大学も、ぜひ皆さん方の頭の中に入れておいてください。お子さんやお孫さん、特に女性にもっと来てほしいと思っています。

知事8年間でいろいろやりましたが、今から振り返ると、最初は三つの批判を頂きました。滋賀県の戦後の民選知事で、滋賀県生まれでないのは私が初めてです。よそ者に何ができるのかということです。それから女性は初めてなので、女に何ができるのか。それから、学者に何ができるのかです。よそ者・女・学者の三つの批判でした。

しかし、8年を振り返ると、よそ者だから琵琶湖の大切さが分かります。私は滋賀県が大好きで、今、琵琶湖畔に住んで、琵琶湖の水を日々頂いて、琵琶湖原人と言っています。もしかしたら、よそ者だから素晴らしさが見えたのかもしれない。ないものねだりではなく、あるものを活かすということです。

これは多分、皆さんの自治体でも基本だと思います。あれがない、これがな

いと愚痴を言う前に自治を言うことも大事です。いいものがいっぱいあるはず。特に外から来た人（風の人）が、元からいる人（土の人）に出会うことで新しいことができるはず。私はよそ者だから、あれがいい、これがいいといろいろなものが見えました。

次に「女だから」。私も仕事と家庭の両立でかなり苦勞してきました。実は今日は、次男のお嫁さんが倒れているので、早く保育園に迎えにいかなくては いけません。6人の孫を授かりましたが、この間の仕事と家庭の両立でこんなに日本は冷たいのかと思いました。自分が苦勞したので、子育て支援や女性の 参画支援を政策の中で丁寧に行ってきました。

次に「学者だから」。皆さんも行政の仕事をしていると、予算・法律・条例・ 前例があるのかといっぱい言われます。これは「How」という一種の行政技 術です。もちろん行政技術は大事ですが、なぜその政策が必要なのかという 「Why」が、学びの中から出てくるはず。私が琵琶湖政策や子育て政策で ぶれなかったのは、社会学や環境学をきっちりやってきたからで、職員になぜ これが大事なのかの説明ができます。また職員同士も、それだったら勉強しよう、 知事にあそこの川の堤防がどうかと聞かれたので、私たちも負けてられないと、 ローカルなところから徹底的に「なぜ」を積み上げてきました。不利なことを 逆手に取って逆転できるのが、自治の原点だと思います。

### 1-3. なぜ学者から政治家へ？

私は、目の前の社会の不条理・課題を変えたいから、学問の世界に入りました。 ぜを知ったら、対策・政策が立てられます。

江戸時代の学者に、近江聖人といわれた中江藤樹がいます。多分名前を聞いた ことがありますが、今の滋賀県高島市で生まれ育ちました。中江藤樹は「知行合一」、 知ることと行うことを一緒にしようと言っています。知ること も行うことも、元は良知（よく知るところ）に根っこがあります。英語で言 うと、Goodwillでしょうか。私自身が考えていることは、おこがましいですが 中江藤樹に近いと思いました。そして、思い切って知事に立候補しました。

私の四つの学問的背景です。私は、埼玉県の養蚕農家生まれです。昭和20年 代の農村は大変です。現金収入がなく、過酷な労働です。食料不足で食べる物 がありません。私は、昭和25年に生まれましたが、母が大変苦勞して、過酷な

家制度下の女性差別の中で私を育ててくれました。なぜ母があんなに苦勞しなければいけないかということから、家族社会学を学びます。

この母の苦勞は、今もかなり同じです。女性が働きやすい社会にはなっていません。特に子どもを持つ女性です。この間、ショックな数字がありました。マタハラです。子どもを産んだ経験がある方がおられると思いますが、女性はスリムに美しくという中で身ごもって、自分の姿がだんだん変わっていきます。でも、命を宿している喜びがあります。これを心から喜んでくれる社会が今の日本にはないのです。5割の人がマタハラを経験しているのです。しかも、女性同士の差別があります。非正規の方が5割で、正規の方も2割です。皆さんの職場はどうでしょう。母と子どもを大事にしない社会では、子どもは生まれません。女は産みません。私は女のルサンチマン（怨恨、恨み心）の叫びだと思います。女を大事にしてくれないなら産んでやるものかという感じです。

それから、未来が安定していないと生めません。経済的にしんどいです。教育は全部国家がと言ってくれたら3人でも4人でも生めますが、爪に火を灯しています。私がびわこ成蹊スポーツ大学で一番つらいのが、学費がないという退学です。また、アルバイトのための休学が多いのです。しかも、母子家庭に多いのです。なぜかという、夫、父、男が逃げるからです。男の逃げ得を許しているのが、今の日本の民法です。離婚後の親権制度が単一親権なのです。先進国で、両親親権でないのは日本だけです。離婚しても、子どもにとっては父も母も関係は一緒です。子どもの親権を親が争い、女性が取ることが多いですが、今、離婚した父親で扶養手当を払っている人はたった3割です。7割が逃げ得です。母子家庭の貧困のために民法を変えてください、両親親権に変えてくださいと民主党政権の時代に私はかなり言いました。しかも専業主婦モデルでいきますから、女性はみんな時間単価800円から1000円のところで争われるのです。

今の日本の少子化の問題は制度の問題なのです。将来に安心できなければ、子どもは生めません。しかし、残念ながら今回の税制の中でも、将来への安心を埋め込む改革が三つの新しい矢で出ていません。一つは、専業主婦の優遇税制をやめることです。徐々にでもいいですから、1人ずつが「自分の飯は自分で稼ぐ」という基本をつくることです。そして納税者を増やすことです。専業主婦で、1世帯に1人の納税者ではなくて、夫と妻両方、2人の納税者にして、

社会保障も2人で支えます。専業主婦の3号年金（夫に付随する年金）は先進国でやってはいけないことです。なぜなら社会保障の支え手で、資格もあって働く意欲もあります。その支え手を家庭に閉じ込めて、納税者にしません。社会保障の担い手にしません。こんな先進国はありません。その元とはといえば、明治民法です。「男尊女卑」、男は社会で活躍、女は家庭で、という男女役割分担。そのようなことを私は家族社会学で学びました。だから一生懸命自治体で改革をやりました。ただし、自治体では税制も社会保障の仕組みも変えられません。これは国としてやらなくてははいけません。

また、農家の生活で農業の大切さを学び、農業の原点のアフリカでコップ1杯の水の価値を学び、1皿の食物の価値を学びました。そして、水環境学をやりたいとってアメリカに留学したら、1,000年、2,000年続いてきた水との共生社会が実現されているのは、アメリカでもヨーロッパでもなく日本なので、日本に帰りなさいと指導教諭に言われました。ですから、日本に帰って、琵琶湖辺の研究を始めたのです。自分は学問をいろいろやってきましたが、これはみんな、社会をどうにか良くしたいという思いでもありました。

その中で、なぜ知事になったのか。これも繰り返しになりますが、まず、財政リスクとしてのもったいないで、ダムや新幹線の新駅に反対という思いです。二つ目の人口減少リスクに対しては、子どもを生み育てやすい社会をつくりたいということです。女性が仕事に出るから子どもが生まれないといますが、違います。女性の有業率が高い方が出生率が高いのです。一瞬耳を疑うでしょう。女性の有業率が高いスウェーデン、フィンランド、ノルウェー、デンマークは出生率が高いのです。あなたはどう思いますか。

(A) 私もそうだと思うのです。男に頼るといってあれですが、自分が確実に稼いでいる方が将来的に安心です。その方が、子どもを産んでも大丈夫という安心があります。

(嘉田) そうなのです。将来の安心です。自分に確実に仕事があり、配偶者が確実に育児参加をしてくれる。企業や職場がサポートしてくれる。社会が子どもをかわいいと、ポジティブに子どもを大事にしてくれる。電車に乗ったら、おなかの大きい人にすぐ席を譲ってくれて、エレベーター内でも荷物を持って

くれる。そういう優しい社会では子どもが生まれます。女性も産んでもいいと思います。それが北欧なのです。南のギリシャ、イタリア、スペインは男が威張っているばかりで駄目です。後からデータをお見せします。はっきり言わせていただきます。ですから、子どもを生みやすい社会をつくるのが、地方創生の大変大事なポイントです。女性と子どもを大事にしなかったら、地域は人口が増えません。子どもと子育て中の男性も含めて、家族を大事にするところは未来があります。

三つ目は、今申し上げた環境リスクです。琵琶湖は戦後の食糧難のときに、内湖という付属する湖を干拓したり、埋め立てたりしました。高度経済成長期は下流の大阪・兵庫に水をたくさん送るために、琵琶湖を利水ダムと治水ダムで、「琵琶湖総合開発」という事業により多目的ダム化をしました。

多目的ダム化には、深刻な問題があります。大雨のときには水位を下げてできるだけ空っぽにしておくのですが、大雨は魚が産卵に上がる時です。琵琶湖には魚が60種近くいます。子どもを産むのに必ず沿岸に行きます。なぜだと思いませんか。沿岸には餌がたくさんあり、敵がおらず、そして隠れる所があります。田んぼは最適です。田んぼや内湖が産卵場だったのです。多目的ダム化は下流のためでもありましたが、結果として、魚をどんどん追い出していました。

それから治水という意味では、これもあまり知られていませんが、2年前の18号台風のときに琵琶湖の出口を全部閉めました。どなたか、琵琶湖の瀬田川の出口の洗堰あらいぜきの全閉操作を聞いたことはありますか。水道関係の方はどうですか。知っておられたのですね。全閉を聞いていましたか。

(B) いくら流しているかを見ていました。

(嘉田) あのときはゼロにしましたね。18号台風は、2013年の9月15日から16日です。42年ぶりにゼロにしました。ゼロにすると、琵琶湖周辺が水浸しになります。私はそれでも下流を守るために、知事としてOKと言っていますが、議会では怒られています。知事は滋賀県、自分たちのことだけ考えていればよろしい、下流のことは考えなくてよろしいと言いますが、どう思いますか。

全閉10cmで、琵琶湖に水を600平方キロメートルためると6億tですから、

日本で最大の徳山ダム二つ分になるのです。10cmくらい下流のためにためてもいいと、私は知事として判断しました。しかし、最終的には国交省が決めます。知事の意見は参考意見です。あのときは桂川があふれる寸前でした。宇治川も1,500tのところを1,470tぐらいまでいっていたのです。あのまま流していたら、宇治の町は水浸しになっていたかもしれません。大変なことでした。

このように治水もきちんとやっているのが琵琶湖総合開発です。ただ、6月の梅雨の時期と10月のアユやマスの産卵時期に水位を下げってしまうと産卵できなくなるので生態系に大きな影響があります。そのところを、田んぼに魚道を付けたり、産卵したときに水位をキープしてもらうために国交省との連絡網を作り、県から申し入れることでかなり改善されてきました。それが三つの非持続性（もったいない）に対する異議申し立てです。

もったいないというのは、単に金や物を節約することではありません。物事や人の本来の力が発揮されてありがたいと思う気持ちです。逆に本来の力が失われてしまうと、心惜しいと思います。そして、発揮されたときのリスペクト（敬意）です。私自身は、環境社会学会もずっとやっていますが、環境社会学会時代からこのもったいないという言葉を使っています。

## なぜ知事に？ 三つの非持続性（もったいない）

### ～日本病の制度疲労に怒りと不安～

- (1) 官僚主導、政治腐敗の中での高コスト体質の公共事業  
—借金財政、次世代つづ回し（財政リスク）
  - ・省益主義から抜け出せない官僚、一方で、利権誘導から抜け出せない政治家
  - ・高コスト体質の公共事業、ダムが典型（新幹線新駅は地元政治家利権誘導）
- (2) 「命を生み出す」人口減少社会リスクの実感が政治家にみえていない  
「女・子どもの世界」として本格人口政策に取り組みない政治（人口リスク）
  - ・「女性が仕事に出るから子どもが生まれにくい」「3歳母性神話」という誤った認識。
  - ・あたりまえの人びとの願い（家庭をもって子どもを生み育て、年老いたら孫と暮らす）  
があたりまえに満たされる社会を求めたい。

目の前に、生まれたばかりの孫の顔をみて最終的に決心（孫高1、小6、小3、4歳・1歳）。
- (3) 国政である琵琶湖総合開発による自然破壊（環境リスク）
  - ・①戦後食料難時代の内湖埋め立て、②高度経済成長長期の水資源開発、下流重視の治水政策。結果として、生きもの、生態系への配慮を欠いた琵琶湖改変。
    - ・官僚的、家父長的、中央集権的価値観への疑問と怒り
    - ・このままでは日本に未来はない、
    - ・政治は価値観のぶつかり合いと権力による未来選択、政治に学問の知恵を！



海外で英語で講演するときには、もったいないは英語にならないのです。valuableではありません。失われて惜しい、というpity to loseだけでもありません。その裏にはまさに仏教思想、人と人、人と自然の共生の思想があります。「もったい」は、そもそも仏様の言葉です。もったいないは住民の皆さんから教わり、私も地域の歴史や環境文化を学びながら頂いた言葉です。

このもったいないの選挙は、「軍艦 対 手こぎ船」と言われました。それは当然です。「泡沫候補」と言われましたから。自民・公明・民主の政党推薦、プラス270団体推薦の現職に、こちらは何の推薦もありません。知事選挙に出るのはそもそも無謀だと言われました。知事選挙に5,000枚のポスターが必要だと言われましたが、私は恥ずかしながら、それは選挙委員会が貼ってくれると思っていました。自分たちで5,000枚のポスターを貼ります。正確には4,890枚くらいでした。1人10枚貼っても、400~500人、そんなに人がいるはずがないという調子でした。お金も何千万円掛かるか分かりません。しかし、どうしても我慢ならなかったのが、三つのもったいないです。税金の無駄遣いにならぬように歯止めを掛けなければいけません。これ以上次の世代に付け回しをしてはいけません。子どもが生まれません。

実は、フェミニストの上野千鶴子さんと大学時代は一緒の社会学研究会でした。上野さんは、「子どもを産んだら男に利用されるから私は産まない」と言いました。1973年くらいです。しかし、個人的に産まないという選択肢はあるかもしれないけれど、子どもを産まなければ社会が継続できません。「私は授かったら産みます」と言ってお上野さんと何十年か決裂していました。彼女は「あなたは日和るのか」と言いましたが、別に日和るのではなく、子どもを授かったら産みたいのです。それに子育てはやはり楽しいでしょう。最近では2人ともおひとりさまになったので仲良くなっていますが、一時期は嘉田さんは日和った、子どもを産んだと言われました。

個人ではなかなか決められないことと社会のつながりを思うときに、どうしても社会に対して自分の経験から物を言っていかななくてはというのが2006年の選挙でした。5人、10人の対話集会を徹底的に進めました。選挙は面白いのです。「選挙は熱伝導」です。1人が本気でいいなと思うと、10人、100人に広がるのです。駄目と思うと全然広がりません。たった2か月半で無名の泡沫候補が21万票頂けたのは、財政難・子育て・琵琶湖問題の政策です。



琵琶湖が息苦しいと、どうしたらいいのかを訴えました。私は琵琶湖研究者として、方策があります。子どもが生まれにくいのはどうしたらいいかは、経験者として方策があります。税金の無駄遣いのもったいないは、新幹線の新駅には数千億円掛かります。それより教育・環境・文化・心の豊かさを県政で進めましょう、ハード物はもういいと訴えました。それがだんだん広がっていったのだと思います。

そのときのキーワードは、「鉛筆1本の勇気」です。組織にいと、団体やいろいろな人でみんながなじがらめです。連合も自治労も結構がなじがらめです。そこを、「鉛筆1本の勇気は、あなたが主権者として候補者を選ぶ自由です。責任もありますが、その自由を鉛筆1本の勇気で手に入れましょう」と訴えたのです。

実は、私の姉が埼玉県本庄市で市議会議員をしています。ちょうど公示後に選挙の応援に来てくれました。知事選は17日間あります。最初のころに「由紀子さん、あなたは裸一貫、手こぎ船だから、鉛筆1本の勇気を訴えよう」ということで、「鉛筆持ったら嘉田由紀子」を広めました。子どもが乗ってくるのです。子どもが乗ってくると広がるのです。そういう意味では面白い選挙でした。

政策を訴えて、意味を伝えます。それも本当に少人数です。女性仲間が何人かで選挙事務所に行っても誰もいないと言うので、「選挙事務所でお茶を飲んでいる人がたくさんいるようなところは駄目よ。みんな現場に出ている」と言っていました。それはやせ我慢です。本当は現場にもいないのです。相手は現職なので、当時の連れ合いが「立会演説会であちらは500人いたけれど、おまえは10人か」と言いましたが、10人でもいいのです。熱を帯びたら、10人が100人、1,000人になります。

旦那は、選挙をそれなりに手伝ってくれました。私は生まれたのは埼玉ですが、嫁入りした先は大阪の貝塚です。嘉田の義理の父は泉陽信用金庫の理事長でした。銀行系の理事長なので、嘉田家では政治はタブーです。まして私は長男の嫁ですから、長男の嫁が知事選挙なんてということで、結局離縁になりました。ですから、先ほどおひとりさまと言いましたが、今1人なのです。

結果的には、別れてくれて良かったのです。一緒にいたら、24時間365日仕事ができません。今日のご飯をどうしようなど、やはり旦那にいろいろと気を



遣うでしょう。そういう意味では、別れてくれてありがとうございます。全然けんかしているわけではありません。彼は同じ環境学者をしていて、学者が政治に口を出すべきではないという強い意思がありました。私は世の中を変えたいから学問をやっているのであって、論文や本を書くためではありません。ここも意見が違いました。それでめでたく別れることになりました。

事ほどさように厳しい選挙でしたが、結果的に厳しい選挙をしたので政策はぶれませんでした。議会でダムは要らないと言うと、水は川の中に閉じ込めるものだ、ダムと堤防で一滴たりとも水をあふれさせるなど、ダムの必要論がすごいのです。しかし、この温暖化の時代は、あふれることもあります。それからダムには、ダムの上に降る雨しかたまりません。大事なのは堤防強化です。つい最近起きた鬼怒川の堤防破壊、この上流には四つのダムがありましたが、ダムで止め切れませんでした。ダムに数千億円入れているので堤防強化ができませんでした。堤防強化をしていたら数百億円で済んでいました。堤防とダムでは金額が全然違うのです。

ダムは、ゼネコンでなくてはできません。堤防は地元の小さな土木業者でできます。滋賀県内の土木業者に、既にできているダムがいっぱいあるけど、あなたたちの仕事にお金は落ちたのかと聞きました。構造計算ができないからトラックで土砂を運ぶぐらいで、あとはみんなゼネコンということでした。しか

## 「軍艦」VS「手こぎ舟」選挙

### ・ 2006年の滋賀県知事選挙は、こう表現された。

- ・ 選挙期間中は、「泡沫候補」といわれた嘉田陣営。自公民・270団体支援の現職優勢と伝えられていたが、投票日近くになり、だんだん人びとの投票意識が明らかになるにつれて、霧がはれたように、湖上に「手こぎ舟」がたくさんあることがわかった。
- ・ 選挙後の政策実現のための、知事としての覚悟では、時としてあまりに批判がきつくて、心が折れそうな時、「鉛筆1本の勇氣」で、既存の政党や団体の推薦を無視しても、嘉田に投票をしてくれた一人ひとりの思いと願いを思いおこす。
- ・ すると、マニフェストで約束した政策実現への力、背中から住民に押しもたれていることが実感され、勇氣がわいてきた。選挙をどう問うかで、政策実現の筋道が規定される。
- ・ 学んだことは「選挙は闘いではなく、参加のプロセス」だということ

し、堤防ならやれます。ですから、まさに地域の自治です。仕事の自治という意味でも、大きなダムより堤防で確実に水を防ぐことを滋賀県は採用しました。

選挙は大変厳しかったのですが、1票1票の鉛筆1本の勇気で、21万票と42万票を頂きました。知事答弁には結構批判がきついです。42万本の鉛筆で名前を書いてくれていますから、これはありがたい、ぶれてはいけないと、後ろで支えてもらっている感じがしました。それは政治家冥利に尽きるというのでしょうか。学者よりもずっとやれることがあります。ダムや流域治水の問題で何十冊も本を書いて、何百本も論文を書いて、審議会に何百回出たとしても、審議会・委員会では政治は変わりません。本を書いても変わりません。しかし、首長になれば変わるのです。私はそこを経験させてもらいました。

政治が変わる・変えられるのは、首長が職員の皆さんの力と一緒にいるからです。後で紹介しますが、2006年7月20日の最初の就任のときに、まず職員に謝って、職員と三つの約束をしました。一つは、今まで進めたダムと駅を、県民との約束でやめることにごめんなさいと謝りました。二つ目は対話と共感で、現場主義でいこうということです。職員は、本当に針のむしろです。知事は1か月1回悪代官をすればいいのですが、職員は毎日です。現場の声を知事のところに確実に上げてもらいました。三つ目は、できるかできないかではない、やるかやらないかです。できない理由は要らない、やるということです。県民の付託が出ているからこの政策は実現するしかない、かなり厳しく言いました。ですから、県職員は仲間、私は改革の戦友と思っています。

## 2. 仕事と家庭・子育ての両立を目指した人生

### 2-1. 研究背景と滋賀県・琵琶湖への思い

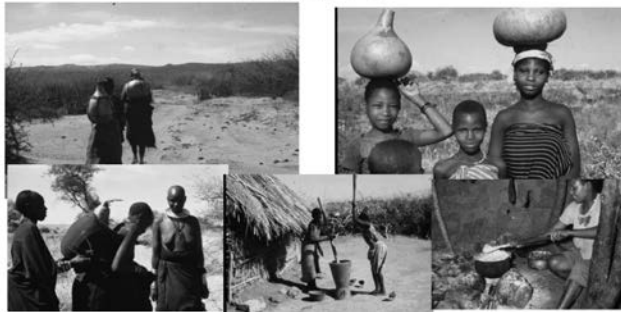
私は埼玉県の養蚕農家に生まれました。中学校の修学旅行で比叡山の延暦寺と琵琶湖に出会い、こんなきれいな所に住みたいと思いました。よそ者の感動です。高校の修学旅行は三井寺です。関西の美、歴史、文化に魅せられました。

高校時代に『人類の誕生』『サバンナの記録』『栽培植物と農耕の起源』という3冊の本に出会い、農業とはこんなに奥深いのだ、人類はアフリカから生まれたらいいということで、アフリカ探検に行こうと思い、決めたのが探検部のある大学でした。大学には受かったのですが、探検部は女人禁制でした。1969

年にまだ女を入れないクラブがあったのです。女人禁制といってプレジデントだったのが先ほどの嘉田です。私の連れ合いになった人です。

アフリカに行きました。本当に乾燥地帯です。牧畜民のお母さんは、背中にひょうたんを背負って、片道4km、往復8kmを、2時間かけて10Lくらいの水を運びます。重労働です。雨が降らないと、トウモロコシも育ちません。コップ1杯の水の大切さを学びました。

## 1971年、タンザニアの村にて コップ一杯の水、一皿の食事の価値に 目覚める



ちょうどそのときに、『成長の限界』という本が出ました。環境共生社会への関心に目覚めさせられて、アメリカに留学しました。そのアメリカ留学で、日本の水田農村の価値を教えてもらいました。そして滋賀県の研究を始め、琵琶湖研究所・琵琶湖博物館・大学に行きました。

これは本当に懐かしい写真で、1971年に私が住み込みをしていたタンザニアの村の日々の生活です。今はバケツになっていますが、当時はまだひょうたんでした。

## 2-2. なぜ日本では、「男は外で」「女は家」という固定的家族役割が根強いのか？

アメリカ留学中に、長男を授かりました。そのときアメリカの指導教員から、水田農村の調査を促されました。それと併せて、社会心理学のカウンセラーの先生の言葉が大変ありがたかったです。私は迷っていました。今もそうですが、女性は1人目の子どもを産んだら、10人のうち7人は仕事を辞めます。2人目が生まれると8人辞めます。3人目が生まれたら9人辞めます。子どもが3人いて、仕事を正規で続けている人は10人に1人です。

40年前のアメリカでは、女性のライフスタイルをどうするかという社会心理学の研究がありました。私はたった1時間のカウンセリングに行きました。「あなたのようにアフリカに行ったりアメリカに留学する女性は、専業主婦には不向きです。あなたは子どもが生まれたら、きっと「あなたが生まれたから仕事を辞めたのよ」と言うでしょう。これは子どもにとっては最悪です。子どもは、自分が望まれない子だと思います。1日24時間のうち、23時間は自分の研究と社会参加に使いなさい。その間の子育ては保育園の皆さんにお願いしてください。1日1時間愛情を持って育てたら子どもは育ちます」と、社会心理学の先生が1時間本気でアドバイスしてくれたのです。

こういう話はどうですか。

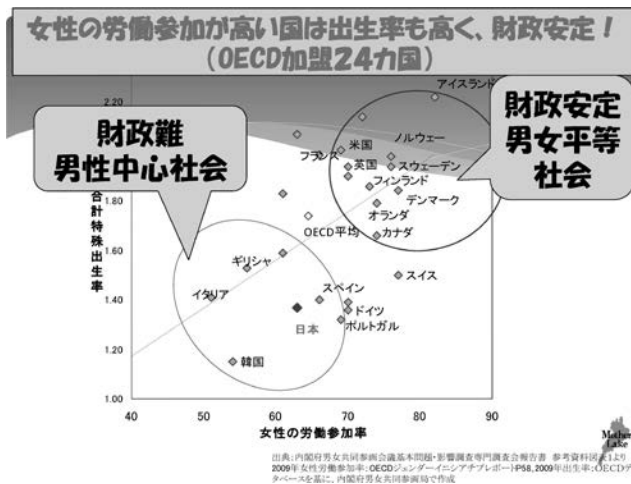
(C) 「よっしゃ！」と、すごく勇気が湧きます。

(嘉田) 「よっしゃ」と勇気が頂けますよね。私は、その先生に40年間感謝しています。アメリカでは、そういうエクステンションワークをしていたのです。今もしています。私はこれを日本でやりたいと思いました。それで、滋賀県ではマザーズ・ジョブズ・ステーションで、まずは子育てと仕事をどのように両立するかをカウンセリングします。しかも、子どもを少し預ける保育コーナーも全部県費でつくりました。

国は1か所目のときに、ハローワークの端末を触らせないようにものすごく抵抗しましたが、1か所目が成功したら、2か所目は国からやらせてくれと言ってきました。今は滋賀県内に2か所あります。女性の仕事や子育てにまつわる悩みの大きさを男性も同じように抱えてほしいのですが、なかなか抱え切れて

いません。

20ページは女性の労働参加率と出生率の相関を表すグラフです。右上に位置するノルウェー、スウェーデン、フィンランド、デンマーク、米国、英国、オランダ、カナダ、フランスでは、自分で稼いで、自信を持って子どもを産めます。女性の有業率は8～9割で、出生率は2.0に近いのです。左下に位置する国は、女性の有業率が5～6割です。日本は6割を超えていますが、韓国は5割です。借金大国のギリシャは56%でしょうか。出生率が1.4です。韓国に至っては1.19です。ここは、女子どもは黙っている、家に引っ込んで子どもを育てたらいという社会です。



私自身は、家に引っ込めないから勉強もしてきたし、資格も取ってきました。社会参加をしたいから一生懸命学んできたわけです。大学を出るまではあそこに太陽があるように見えたが、実はガラスの天井がありました。私も1人目の子どもを授かったときはそうでした。これが日本だったら、多分あなたは専業主婦になりなさいと言われていたでしょう。

右上の国は、男女平等社会です。男性もしっかりと子育てに参加しなければいけません。また、例えば企業がお父さんを単身赴任させるのは憲法違反です。憲法が家族と子どもを大切にする仕組みになっているのです。ですから、安心



して家族を持って、生み育てられます。教育費はほぼ国費です。

今、日本のGNPに占める公教育の費用の比率は、先進国の中で下から2番目です。日本ではみんな自分で教育費をとっていますが、右上の国々は教育費も含めて男女平等をきちんと実現できているから、財政安定でダブルインカム、ダブル納税ができるわけです。

なぜ日本では、男は外で女は家なのでしょう。家族問題は政治や行政の関心事ではない、政治が口を出すべきではないと自民党政権はずっと言ってきました。しかし裏では、根強い明治日本的な「男尊女卑」の長男子単独相続と、「家制度」で個人より家の継承や発展が思想的に継承されてきました。日本は専業主婦モデルの法制度なのです。

今も政治家は、女性の国会議員が10%ちょっとです。先進国では最下位です。全世界で129位や130位です。どこから豊かな平等社会の政治が始まったかというところ、1970年代です。例えばノルウェーではクォーター制度（割当制度）をつくり、国会議員の3割を女性にすることを法律で決めました。女性が国会議員や首長、市町村議会議員になると、子産み子育ての細かいところまで配慮が行き届きます。

今日の皆さんの所属を見ると、環境系、水系、子育て系の担当が多いと思います。いろいろな政策をやっていると、母子福祉と雇用がもう少しつながれば

## 欧米と逆行する日本の家族制度 税制、社会保障制度の歴史

**1961年** 高度経済成長期の専業主婦配偶者控除制度発足

(ノルウェー:1975年 国会議員の3割を女性に！)

**1979年** 自民党「日本型福祉社会構想」(専業主婦固定化を強調、理由は「女性が働くほど温かい家庭が破壊される」として性別分業を強調(このあと家族をもたない、もてない若者・女性がふえていく→少子化)

**1985年** 男女雇用機会均等法(本気の共同参画を目指す)

**1985年** 国民総年金化→専業主婦用の「第3号年金制度」発足

**1987年** 専業主婦配偶者特別控除制度(上乘せ)

女性の非正規「補助労働者」としての地位を固定

**1990年代**にはいって若者男性も非正規化、労働政策の問題

いいなど、いろいろと思うでしょう。それを丁寧につなげてきたのが北欧です。女性政治家を増やしてきたのです。

日本の家族制度は、完全に欧米と逆行しています。1961年に、専業主婦配偶者控除制度を作りました。これは、女は男の付属でいろということです。もちろん、専業主婦には喜ばれます。子育てなどに集中したい、と思う女性はおりますが、社会的にそのように仕向ける仕組みが税制や社会保障制度です。そして、女性を専業主婦の役割に閉じ込めるということです。1975年に、ノルウェーから国会議員の3割を女性にすることが始まりました。今、女性政治家のクォーター制度は、韓国と中国にもあります。クォーター制度のない、しかもこんなに政治家の数が少ない先進国は日本だけです。

この間参議院でクォーター制度の研究会があったときに、「女性だけにゲタを履かせるのはけしからん」と、ある男性国会議員が言いました。その人は2世議員なので、「皆さんはコンクリートの上を革靴で歩いて、いいですよ。私たちは泥沼で裸足です。ゲタぐらい履かせてください」と申し上げました。2006年の知事選挙は泥沼で裸足でした。政治のトップにいる人たちがそのくらい分かっていないのです。

そして1979年に、自民党は専業主婦を固定化する日本型福祉社会構想で、女性が働くとき温かい家庭が破壊されるとして、性別分業を強調しました。この後、家族を持ってない・持たない若者と女性が増えていきます。

今日は15日ですから、明日は最高裁の選択的夫婦別姓の判決の日です。選択さえさせてくれません。他の人には強要していません。自分はこの姓を選びたいのに、選べないという先進国はありません。明日最高裁の判決で、夫婦別姓が憲法違反と出るとかどうかわかりません。私は連れ合いの名前を使っています。最初に書いた論文が嘉田でした。大学を4年で卒業して、論文を書きました。結婚し、自分は最初から嘉田の名前で社会発言をしていますから、まあいいかと思いましたが、名前が変わり、離婚して元に戻るなど、途中でどんどん変わると、資格試験などは大変です。なぜ一方の姓だけが、そこまで不便なのでしょう。明治民法そのものです。そして、夫婦別姓になると温かい家族が破壊されると、一番反対しているのが自民党です。では韓国はどうでしょう。韓国は最初から夫婦別姓です。あれは伝統的な血族の感覚です。

1985年に男女雇用機会均等法を作りますが、実は、その年に専業主婦の3号

年金制度を作ります。もちろん専業主婦には歓迎されましたが、男性は実質1人なのに2人分の厚生年金を払わなくてはいけなくなりました。専業主婦優遇です。そして、専業主婦配偶者特別控除を上乘せします。女を全く一人前に扱わない政策が1960年代からずっとあるわけです。ですから女性の賃金がいつまでたっても103万円の壁で、時間給800円なのです。例えば30～40代で、男性の正規雇用は時間給が3,200円です。800円と3,200円で、4倍の差が付いています。これが専業主婦優遇をしてきた雇用制度への影響です。そして、母子家庭は専業主婦と戦わなくてはいけないので、大変な状態です。まさに格差が広がっています。

### 3. 税金の無駄遣いもったいない

#### (1) ムダな公共事業の見直しによる財政健全化

公共事業見直し政策で職員に伝えたのは、行政としての知事マニフェストです。方向を理解してほしいということで、まず政策変更を入れました。そして、現場主義です。対話と共感で現場の声を一生懸命聞いて、知事にどんどん上げてと言いました。最後はできるかできないかではない、やるかやらないかです。これを8年間伝え続けました。ですから職員は戦友です。

「かだマニフェスト」でダム六つに凍結を出しましたが、先ほど言ったようにダムとほぼ同じ機能が、堤防強化の流域型治水でできました。例えばダムの1,000億円が、流域型治水なら30億～40億円でできるというデータをいっばい出しました。そして、日本で初めての流域治水条例を作りました。そして、2011年、橋下さんがまだ知事の時代に、大戸川ダム工事の見直しにより、大阪の負担を減らしました。

流域治水は、一種の多重防御です。ダムにためるだけではなくて、川に水が流れ込まないように、森林や町の中のため池やグラウンドなどで水を貯留します。それから、例えば二線堤、霞堤、水害防備林が昔からあります。そして危ない所には家を建てない、建てるなら建物を高くするという土地利用と建物規制と、万一のときの避難態勢です。この四つを流域治水として合わせてやってきました。これも部局別にやったではありません。住民は水がどこから出てくるかは分かりません。下水道があふれるのか、2級河川なのか1級河川なのか、あるいはマンションが低いからなのかなど、全てのことを集めてリスクマッ

プを作り、地先の安全度マップづくりを始めました。

国も、滋賀県の流域治水方式の採用を始めています。温暖化の時代で、水を閉じ込め切れないのです。新潟の洪水がありました。由良川もありました。18号台風を含めて、国が滋賀県方式を採用し始めたのです。ただし、絶対滋賀県方式と言いません。国も昔からやりたかったのです。この間、12月6日に東京で国交省の担当者に入っていただいて、シンポジウムをやりました。ここでも滋賀の方式を全国にもっともっと広めていこうという話になったのですが、そのときには市町村の役割が大変大事です。今日は大東・寝屋川の方が来られています。住民にここまで水に浸かりますというリスクマップ（ハザードマップ）を確実に示します。いざというときは、都会は意外と横に逃げなくてもいいのです。縦に逃げればいいのです。普段から縦方向の避難を考えておきます。

そして、特に子どもたちです。子どもは少しの水でも流されます。ですから、学校でリスクマップを持って避難体制をつくります。東日本大震災の三陸の津波で一番つらかったのは、大川小学校などの子どもが亡くなったことです。お父さんとお母さんが裁判をしています。釜石市は、子どもたちが率先して逃げました。災害は厳しいですが、子どもの命が助かれば、どうにか生きる希望があります。ですから孫子の命のために、災害教育の中で広めてほしいのです。それが滋賀県の流域治水です。

#### 4. 子どもが生まれ育たない社会もつたいない

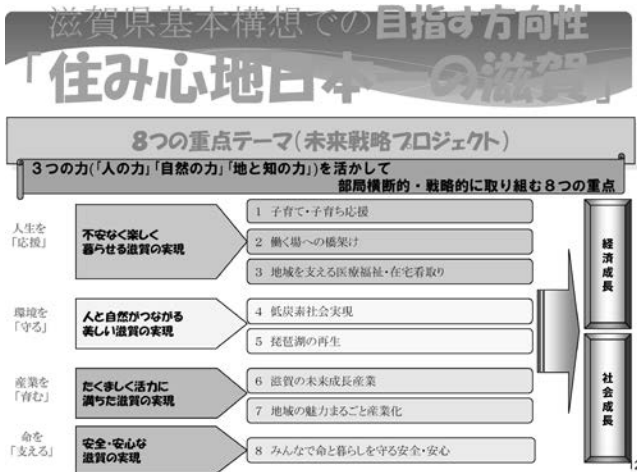
##### (2) 命を生み出し守り育てる人口減少への滋賀県の独自政策

次に、子育て政策です。滋賀の人生の応援団として、「環境を守る、産業を育む、命を支える」が、私が8年間で集中した政策です。

子育ては、生まれた子どもがありがとう、親もありがとう、社会もありがとうの三方よしでいなくてはなりません。少子化対策で子どもを増やすのは、社会の都合です。親の都合はどうですか。生まれた子どもは、本当に幸せですか。未来が不安なら、子どもに申し訳ないと思います。

原発事故が起きたらどうなるのですか。今、福島の子どもたちがどんなに苦しんでいるか。二度と事故を起こしてはいけません。子どもが大事なら、まずは日本を安全な国土にしてほしいのです。

地震と津波は避けられません。自然界の大きな災害です。しかし、原発事故

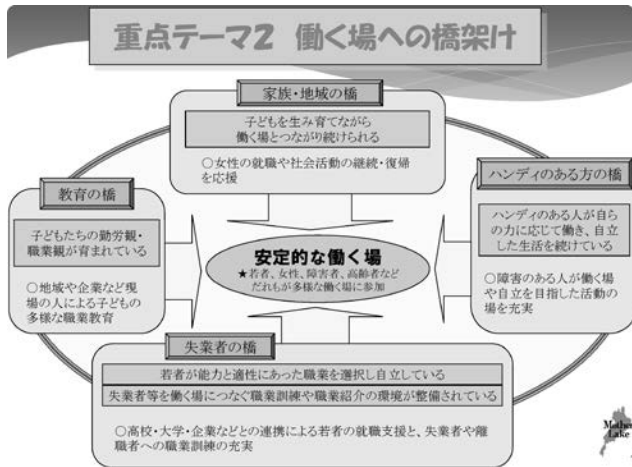


は避けられるのです。早く卒業したらいいのです。人災の面がなきにしもあらずです。あのとき福島がやられました。30mの崖を25mに切り下げて設置しました。女川原発は、津波が来るからあえて高い所に設置しました。津波が来ることを前提に被害に遭わなかった女川原発と、津波のことを全く配慮せず設置してしまった福島でこんなに違いが出ます。

子どものためにも仕事です。子育て中の女性が、希望したら確実に安定的に仕事ができることが大事です。若者は今、非正規が4割です。これを正規雇用にします。滋賀県では、特に高学歴で滞留している若者がたくさんいました。県で雇って、1,000社の中小企業と若者をマッチングする仕事を私は始めました。積極的雇用政策です。

1人の若者が正規の職に就いて納税者になると、非正規のままずっと結婚もできずにいるのでは、どれだけ違いがあるでしょうか。生活保護には、1億円の社会的投資をしなければいけません。1人でも納税者になってもらう仕組みとして、滋賀県では徹底して働く場の橋架けをしました。

家族・地域の橋、教育の橋、ハンディのある方の橋、失業者の橋という四つの橋はスウェーデンのモデルです。スウェーデンはこれを徹底的にやってきました。その北欧モデルを、滋賀は神野直彦さんと宮本太郎さんたちにいっぱい教えてもらいながら作ったのです。



そして先ほど言いましたマザーズ・ジョブズ・ステーションで、徹底的なカウンセリングをします。育児コーナーでは保育士を雇い、予約なしで子ども連れで来ても、相談しているときは保育士が見ていてくれるようにしました。相談がある程度出来上がったならハローワークの端末をたたくて仕事を探すというのが、子育て支援・就労支援センターです。

その成果として、先ほど全国で人口当たり出生率が全国2位と申し上げました。ありがたいことです。

## 5. 琵琶湖の環境壊したらもったいない

### (3) 命を守る環境・琵琶湖政策、原発による生活自然破壊への抵抗

三つ目の琵琶湖環境政策です。琵琶湖には戦後、三つの受難がありました。一つ目が内湖の干拓・農地化で、在来魚介類の産卵場が失われました。二つ目に、下流府県のための利水・治水機能と琵琶湖総合開発で、湖と周辺のヨシ帯、水田、水路が分断化されて、在来魚介類の産卵場が喪失しました。三つ目に、レジャー用の外来魚介類のブルーギルとブラックバスの違法搬入で、これも大変な影響がありました。

これに対して、物としての水や湖ではなく、命を育む存在価値と心を豊かにするという、モノ・イノチ・ココロのセットの環境政策を徹底的に作り上げました。



その背景は住民目線からということで、「虫の目」調査をしました。

琵琶湖の水は、今もちろん飲みます。私は今朝は息子のところから来ましたが、自宅から橋板を作って、毎朝、琵琶湖の水を飲んでいますが。水道のない時代は、水を汚さないために、ここでは絶対におむつを洗ってはいけませんでした。そしてご飯粒が落ちたら魚が食べるという暮らしがごく普通にあり





ました。

これは同じ場所、同じアングルで、同じ人を撮った写真です。茶谷よし子さんという昭和8年生まれの方です。お嬢さんのあい子さんは昭和25年生まれです。コンクリートで固められ、人がいなくなりましたが、実は今ここにあい子さんのお嬢さんのひとみさんなど、若い人が帰りつつあります。このように比べてみると、沖島の暮らしや琵琶湖の暮らしが、だんだん客観的に見えるようになります。

「近い水」という自分たちが管理する水が生きていた時代は、洪水も受け止めて、自警水防組織がありました。それが「遠い水」となって、多目的ダム、堤防内治水、逆水灌漑で完全に水路の管の中に閉じ込められました。利便性、公衆衛生、安全性の意味では、これはこれで大事です。先ほどの沖島のおばあちゃんは、どんなに雪が降っても雨が降っても浜に水を取りにいかなくてはいけなかったのですが、家の中にいて、ひねったら水が出ます。天国に来たみたいだと言います。私も毎朝琵琶湖に顔を洗いにいきますが、最近寒いのです。大雨が降っているとやめて水道で顔を洗います。両方あってありがたいと思います。

日本の場合水道ができると、不潔、古くさい、貧乏くさいと井戸や湧き水を徹底的に排除してきました。琵琶湖周辺も湧き水が徹底的になくなりました。私はそれをどうにか守ろうという運動をしてきました。

田んぼもこんな状態で、琵琶湖総合開発で水路がなくなりました。ヨシ帯が埋め立てられました。今、内湖を干拓化して水田になったのを、元の内湖に戻すという先祖返りのようなことをしていますが、これは大変なお金が掛かるのです。そのままにしておいてくれたらよかったです。たった20haの内湖の再生に30億円掛かるのです。しかし、私は生き物のためと思うので、もったいないとは言いません。入れることにしました。

それから、ほ場整備で魚が入れなくなった田んぼに魚道を付けました。田んぼ水路に魚道を付けて魚が入れるようになると、農薬が減ります。そして安全な米ができます。魚のゆりかご水田です。このように生態系の再生と関わりの再生を、私自身はかなり大事な琵琶湖政策として作ってきました。

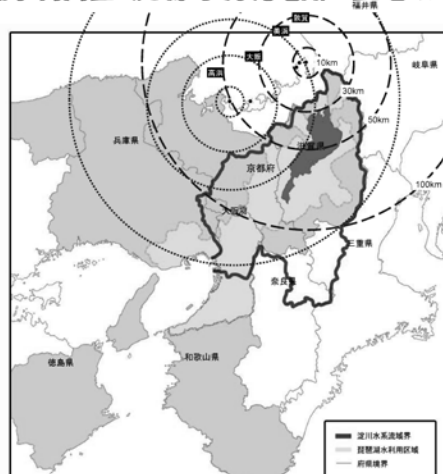
## 6. 命の水源・琵琶湖を預かる知事としてのリスクの見える化と共有戦略

最後に、原発のことをお伝えしたいと思います。琵琶湖水を利用している地区には1,430万人が住んでいます。今日お越しいただいている大東、岸和田、貝塚辺りです。兵庫県では神戸市垂水区や有馬温泉まで行っています。有馬温泉の蛇口の水に琵琶湖の水が入っていると思わないでしょう。季節によって異なりますが、有馬温泉の2～3割は琵琶湖の水です。つまり、神戸市北区です。これが琵琶湖の集水域です。集水域と排水域は人工的な水路でつながっています。

15基の原発が近くにあります。敦賀原発から余呉という所まで13kmです。大飯原発から高島まで25kmです。しかも、風下なのです。秋冬春は大体は若狭からの風です。冬だけが大阪からの風です。

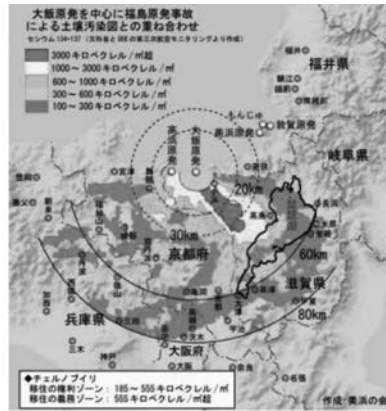
大飯原発を中心に福島原発事故による土壤汚染図を反対方向に重ね合わせてみましょう。これが琵琶湖ですから、本当に濃度が濃い、福島で人が今住んでいない所まで汚染が広がってしまいます。

琵琶湖水利用区域と原子力発電所の立地リスク



滋賀県だけではどうにもならないので、関西広域連合で皆さんと一緒に3.11の翌日に、カウンターパート支援で現場を支援したのですが、滋賀は福島を支援しました。そして、7月には卒原発を全国知事会で私自身が発表しました。全国の知事の中で、結局2人しか声を上げてくれませんでした。知事会で原発のことを話すのは初めてだったそうです。それくらい、みんな国に言われるままでした。エネルギー政策はそもそも自治体にはないのです。そこで大阪府市が中心になって府市エネルギー検討会議を持つことにしました。あの当時の橋下さんは頑張っていましたね。なぜ維新の会は急にトーンダウンしたのでしょうか。2012年9月に石原さんの方に行くと言った途端、原発の話をしなくなりました。今は原発の「げ」の字もありませんが、あの方は当時、関西電力の株主総会に行き、3分のところを10分も演説したのです。その当時の関西広域連合では嘉田と橋下が「原発要らない」をかなり主導して、エネルギー政策もやってきました。

## 大飯原発を 中心に福島 原発事故に よる土壌汚 染図を重ね 合わせると



72

おかげさまで、真夏のピーク化と言わなくなりました。2012年は大飯の3・4号機を動かさないと、中小企業は電気がなくなってブラックアウトして、病院で死者が出るといわれましたが、特に私は関西広域連合のエネルギー担当知事として、節電・省エネを一生懸命やりました。ちょうど関西電力の電力供給範囲に広域連合がほぼ対応します。今年の夏、かつての電力消費量のピーク

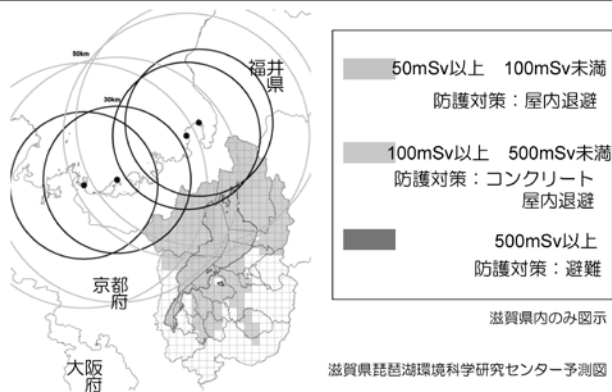
3,000万kWが2,500万kWまで落ちています。安定的に15%落としたのです。皆さんのご協力のおかげです。関西電力はもっと売りたいと言って、危ないと言わなくなりました。これは広域連合があったからです。

卒原発は未来志向の脱原発思想です。リスクをゼロにするためにどうすればいいのかです。今、地震頻発時代に入っています。卒原発は、私は三日月知事にもきっちりとお示しました。

国は、放射性廃棄物の拡散シミュレーション「SPEEDI」というシステムを持っていますが、滋賀県に情報を提供してくれなかったのです。立地自治体以外は提供しません。たった13kmしか離れていないのに提供してくれません。それなら自分たちでやるということで、滋賀県独自で「見える化戦略」をしました。先ほどの琵琶湖研究所が、今、琵琶湖環境科学研究センターという県独自の研究所になっています。そこの大気汚染モデルを使ってシミュレーションをしました。職員が頑張ってくれました。本当に初めての仕事です。知事協議に来て、マスコミからいろいろ聞かれたらどうしようということでしたが、「あなたたちの責任にしないで知事が全部引き受けるから、ともかく結果を出してくれ」と言いました。そして結果を出してくれたのがこの図です。

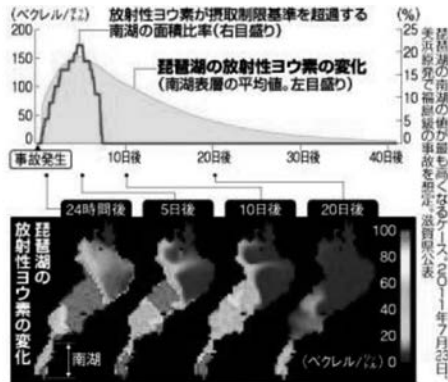
## 放射性物質拡散シミュレーション結果

(2011年11月25日滋賀県公表)



福井と京都からは出すと言われていたので出しませんでした。これは、福島並みの事故が起きて、気象条件で琵琶湖にとって最悪のケースです。オレンジの所が100mSv以上500mSv未満の所で、コンクリートの屋内退避が必要です。緑の所は、コンクリートでなくても、普通の屋内退避です。ほぼ滋賀県全域です。関西広域連合がこの後シミュレーションしたときは、大阪まで来るケースもたくさんありました。

## 琵琶湖 水質への 影響シミュレーション



24

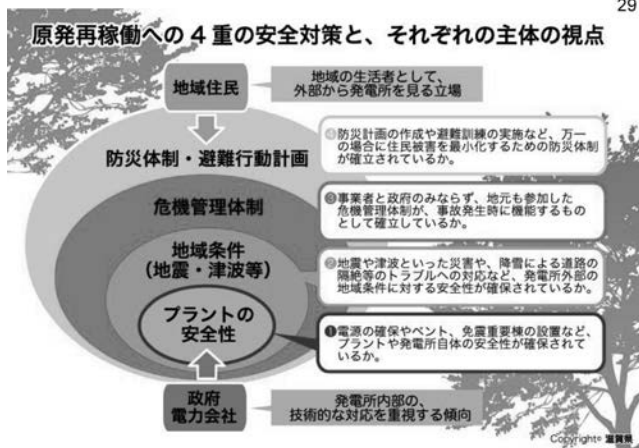
そして水質への影響です。これが皆さんが一番関心があるかもしれません。福島並みの事故が起きたときは、放射性ヨウ素は8日から10日で半減期に入りますが、ピークがこの図の一番左の状態です。南部だけではなく、北部まで100Bqを超えています。200Bq近くですから、このままでは水道を提供できません。20日ぐらいかかります。セシウムは半減するまでに30年以上かかりますから、到底このスピードではありません。

今年、2015年、電力不足の夏を乗り切るという記事です。かつて3,000万kWだったのが2,500万kWまで落ちています。これは皆さんの努力と協力の結果です。

原発を再稼働する条件で、四つの防護体制ということで多重防護と言っていますが、実は実効性のある防護体制が残念ながらできていません。例えば、自家用車では渋滞するのでバスで避難することになっています。先ほどの黄色い



所に滋賀県は195集落、ほぼ6万人が住んでいます。6万人を移動させるにはバスを500台、場合によっては1,000台必要になりますが、運転手が確保できないのです。知事は運転手を汚染地帯に送り出す権限はありません。誰もありません。そのあたりで詰まっています。



実効性ある避難計画は、現段階では不可能です。法令もできていないし、原発が再稼働して事故が起きたら国民の棄民化で福島のものと同じです。関西の水源、琵琶湖はどうなるでしょう。私は最後に気が付いたのです。知事時代に本当に悩みました。あの手この手の実効性ある避難計画を考えて、船もバスも準備しています。しかし最後に、琵琶湖には足がない、琵琶湖は固定されているので逃げられないことに気が付きました。皆さんの大事な命の水源の琵琶湖は逃げられないのです。電源の代わりはあっても、琵琶湖の代わりはありません。

関西広域連合の知事会で、これを関西電力の秋山元会長と現在の八木社長、森前会長がおられる前で言っていますが、誰も耳を貸してくれません。しかし、廊下に出たときに、嘉田さんの言うことはそうだと、時々生命保険会社や電力会社の社長が言ってくれます。あなたはなぜ本会議で言ってくれないのですか、逃げている、ずるいというのが、先ほどのエスタブリッシュメントの人たちへの私の反応です。生命保険会社の社長さん、電力会社の社長さん、勇気を持つ



と言ってください。みんななぜ関西電力にそこまで遠慮するのか不思議だというのが、私の今の本心です。

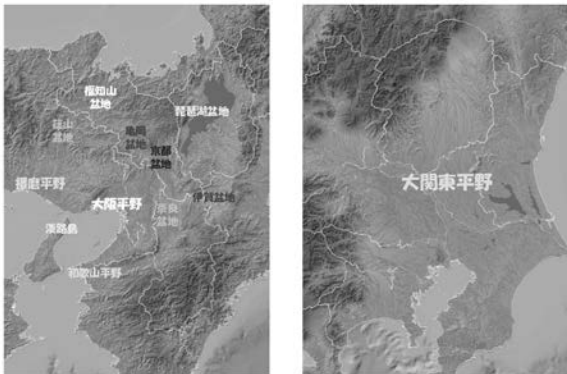
## 7. “もったいない”を活かした持続的な自治体経営

関西は東京と大きく違います。東京は大平原でのっぺらぼうですが、関西は奈良盆地、京都盆地、琵琶湖盆地などの盆地が集まっているのです。私はつぶあんの関西、こしあんの関東と言っています。それだけ自然が近くて、文化も歴史も豊かです。

戦後地方自治の限界を超えるための広域連合を、2010年から2011年に頑張ってつくってきました。今年で5年目です。かなり先駆的な仕事として二重行政解消と言ってきましたが、結果的には出先機関の改革はまだできていません。横つなぎ政策は、かなりできています。先ほどの節電と省エネです。広域連合がなかったら、あの夏は確かに乗り切れなかったかもしれません。

### 盆地文化連合の関西 大平原の関東 (つぶあん関西 vs こしあん関東：水系文化の自然基盤)

4



出典) 国土地理院 色別標高図(海域部は海上保安庁海洋情報部の資料を使用して作成) および 国土数値情報の  
河川・湖沼・行政界データから作成。

それから観光です。海外誘客も大阪のにぎわい、京都の文化、滋賀の農村環境・自然環境ということで、セットでお越しいただいています。海外誘客もかなり増えています。

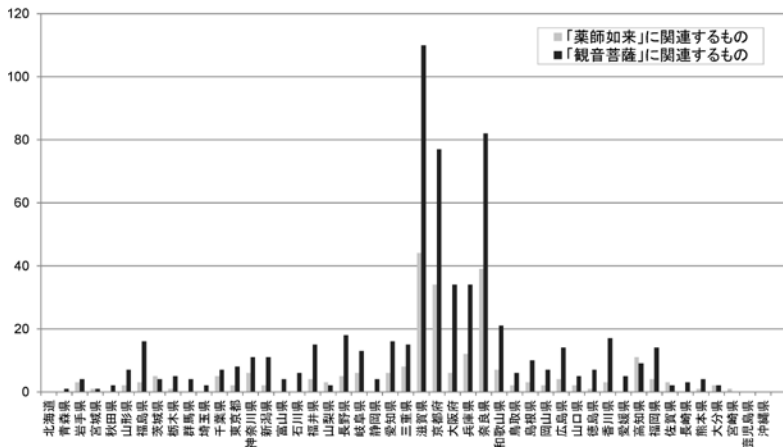
そして一つずつ、大変きめ細やかな自然体験観光なども出しています。今は





## 水にまつわる国指定文化財は滋賀と奈良が拠点に！ （「薬師如来」「観音」に関連するもの）

5



出典)文化庁 国指定文化財等データベース ([http://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/index\\_pc.html](http://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/index_pc.html))。データベースから「薬師如来」及び「観音」のキーワードで抽出した件数をグラフ化。ただし、地域分布の傾向を得るため、博物館・美術館等に収蔵されているものは除く。

冬に琵琶湖の周辺に雪を見に来る人が多いのです。びわ湖パレイには、台湾と韓国からたくさん来てくれます。雪は、確かに初めて見ると感動です。もちろんスキーをする人もいますが、雪を見るだけでいいのです。多言語で、きめ細やかな紹介をしています。

そういう中で、例えば近い水と水の使い回し文化という、琵琶湖独特の水です。家の中にカバタという湧き水がある針江の集落は、私たちが最初に調査を始めたころは、恥ずかしいと隠していたのです。今でこそ自信を持っています。

わが家の前は、毎日こういう風景です。うらやましいでしょう。琵琶湖の水をワイングラスにくんで、学生と乾杯しています。飲めるのかと聞かれるのですが、なぜ飲めないと思うのでしょうか。砂浜はすごい自然浄化作用があります。水道の処理場も、もちろん薬品を使う場合がありますが、砂濾過です。それから、この辺りは湧き水がたくさん出ている。みんなのうんことおしこはずっと南の方の下水処理場まで行っているの、ここに流れ込まないのです。私は自信を持って「飲めるよ」と言っていたら、教員たちが「学長、そんな危ない



## 琵琶湖水は直接飲めるよ！ アフリカ風の暮らしを琵琶湖で！



多くの場所で大腸菌は検出せず

水道水より美しい水  
なぜ飲めないと思う？  
そのイメージこそ問題

2015年5月30日、10月12日

太津市 高田家前の北比良湖岸にて



3

ことをしないでください」と言いました。それならと調べると、大腸菌不検出です。最初から自信がありました。大腸菌の出ようがないのです。

わが家の前で、朝歯を磨いて、顔を洗います。孫が、水のレースが楽しいとあって遊んでいます。下流の関西広域連合からも来てくれたので、みんなで水を飲んでいきます。

上流で守るのは「天台薬師の池」、琵琶湖です。命育み、命守る、未来世代へ。「自然の恵み、先人が育んできた文化の恩恵、知行合一（中江藤樹）を目指して！」。皆さん、ぜひ琵琶湖岸にお越しいただけたらと思います。

これで私の話題提供を終わります。ご清聴ありがとうございました。